

平成 25 年度 第 1 回伊勢市環境審議会 概要

1 . 日 時 平成 25 年 11 月 25 日 (月) 午後 4 時 ~

2 . 場 所 伊勢市役所東庁舎 4 F 4 - 2 会議室

3 . 出席者

中村 貴司 (公共的団体 : 伊勢商工会議所)
川端 利生 (公共的団体 : 伊勢農業協同組合)
杉田 英男 (公共的団体 : 伊勢湾漁業協同組合)
竜田 和代 (公共的団体 : 伊勢市女性団体連絡協議会)
高橋 克彦 (公共的団体 : 伊勢市環境会議)
高橋 虎彦 (公共的団体 : いせしま森林組合)
朴 恵淑 (学識者 : 三重大学)
深草 正博 (学識者 : 皇學館大学)
橋本 清 (学識者)
金田 憲明 (神宮司廳)
扇本みどり (三重県南勢志摩地域活性化局)
岡本 忠佳 (公募)
天野 雅弘 (公募)
【欠】船谷 哲司 (公共的団体 : 伊勢商工会議所)
森本 幸生 (公共的団体 : 伊勢市総連合自治会)
山本 実 (公共的団体 : 小俣町商工会)
坂内 正明 (学識者 : 三重大学)

4 . 概 要

(1) はじめに

市環境生活部長 (可児) 挨拶

- ・環境審議会委員の任期は 2 年
- ・今期 (H25 ~ 26 年度) の審議会の役割は「第 2 期環境基本計画」の審議

各委員の自己紹介

- ・所属団体、活動状況等

(2) 会長・副会長の決定について

次のとおり決定しました。

- 会長：朴 恵淑（三重大学）
- 副会長：深草 正博（皇學館大学）

会長（朴）挨拶

- ・遷宮伊勢は注目を集めている。
- ・平成22年3月に第一期の環境基本計画を策定した。
- ・その後、平成23年3月11日の東日本大震災により、環境が激変した
- ・副会長と各委員と協力し、誇れる計画をつくっていきたい。

副会長（深草）挨拶

- ・遷御に参加した。
- ・1300年の歴史ある遷宮と環境文化のつながりを感じる。
- ・会長とともに尽力したい。

(4) 現計画の概要と第2期計画の策定方針について

市長公務都合により、(3)に先行して審議

現計画の概要及び実施状況説明（事務局）

- ・資料「伊勢市環境基本計画（冊子）」をもとに、現計画の構成、基本方針等を説明
- ・資料「伊勢市環境基本計画実施概要」をもとに、計画策定後の本市の環境状況の変化や計画に基づき実施している事業等の概要を説明

質疑・意見等

- ・「実施概要」p7における宮川についての水質順位の表記が文中と表で異なっている理由は。
文中は国土交通省の発表値、表は三重県の発表値であり、出典が異なる。混同しないような表現に修正する。
- ・悪化の要因を整理しているか。
国の見解によると、BOD値の0.1、0.2は小さな差異であり、天候等の影響でも起こり得ることから、注視していきたいとのこと。市としては、勢田川も含め原因究明を検討中。
- ・早急に取り組んでいただきたい。
- ・宮川では河川工事を実施しており、その影響もあるのではないかと。生コン打設、掘削等により環境を害することがある。
- ・同率1位等があるのか、順位を理解する上での補足説明が欲しい。

- ・「誇り」をもつことも重要であり、0.1 だから良いではなく、優先順位をもって取り組んでほしい。

(3) 第2期伊勢市環境基本計画について(諮問)

事務局より諮問概要説明

- ・現(第一期)環境基本計画の計画期間は、平成22年度から平成26年度までの5年間となっている。
- ・平成26年度中を目途に、第2期環境基本計画の策定を行う。
- ・市環境基本条例第8条第3項「市長は、環境基本計画を定めるに当たっては、あらかじめ、伊勢市環境審議会の意見を聴かなければならない」
- ・環境審議会に第2期計画について諮問する。

市長挨拶

- ・レジ袋、EVなど、地域の意識・行動力に評価いただいている。
- ・神宮鎮座のまちとして、次世代に環境をつなげていきたい。
- ・皆様のご協力をお願いいたします。

諮問

- ・市長より会長に諮問書を交付

委員と市長の意見交換

- ・伊勢は観光都市としての特性があり、地域を訪れる方とともに環境問題に取り組むモデルになる。
- ・レジ袋に引き続きEV等と、大きな取組を進めており、地域の努力により良い循環ができていると思う。
- ・第一期計画の策定では、計画内容について細かなところまで熱心に審議した記憶がある。熟慮された第一期計画をさらに高めていくことが求められている。
- ・災害対策としても森林保全は重要である。薪ストーブ等の需要の喚起にも取り組んでいる。
- ・第一期計画において、数字であらわされる成果については、太陽光発電以外は芳しい結果が出ていないように見える。現実と乖離することなく到達方法を考慮して設定するとともに、目標実現に向かって努力していくことが大切。
- ・昨年度「地球温暖化防止実行計画」を策定し一段落と思っていたが、第2期環境基本計画策定についても、審議会の熱い審議を行いたい。
- ・すばらしい第一期計画、取組みがあることを知らなかった。学校の授業で紹介する等、多

くの市民が知る機会、情報発信をしてほしい。

- ・環境はバランスが崩れるといけない。宮川のBOD値も悪化したという数値がでていますが、防災等の観点も含め、幅広く長い目で検証・対応していくことが必要。
- ・第一期計画において、天ぷら油の回収については、目標が過大であったのではないかと思う。下水道は、幹線工事は進んでいるが、接続率が課題かと思う。
- ・ひとりの力は小さいが、みんなの力を合わせれば大きなものとなる。そのためにも周知の努力が必要と思う。
- ・勢田川の近隣で生活している中、きれいになってきているとは感じるが数値は悪化している。下水道の接続率は課題であるが、それぞれの家の事情もあるだろう。小さなことでもできることを積み上げて実施していくことが大切。
- ・ピオトープなど、環境配慮の河川整備も大切と思う。
- ・台風などの際は、漂着ゴミは減ってきており、市民活動等の成果は出ていると思う。
- ・コンクリートで固めない自然に配慮した河川整備をすれば、後年度負担も軽減できるのではないか。
- ・環境は生活者等、人との共存が大切。
- ・レジ袋等の新しい取組みも、今では根付いて「あたりまえ」になってきている。
- ・川は身近に見えるが、山や海は普段見ることが少ない。見えないものについても考えていくことが大切。
- ・大仏山で里山保全等に取り組んでいるが、開発が進んできている。
- ・開発にあたっては、レッドリストに掲載されているような生物等に配慮することも考えて欲しい。大規模なものだけでなく、簡易であっても環境アセスを行うなど、実態を把握する調査等を行う仕組みを考えて欲しい。調査にあたっては、ボランティアなどの協力も得られる。
- ・地元大学として、皇學館大学としてもできることは協力していきたい。
- ・トップと直に話ができる機会は大事

(市長)

- ・大所高所からご意見をいただいた。
- ・できることからひとつずつ実施していきたい。
- ・来年から森林環境税の導入もあり、活用していきたい。

市長退室により「(4) 現計画の概要と第2期計画の策定方針について」に戻る

質疑・意見等

- ・今、ポスト遷宮を考える時期であるが、環境についても、新しいまちづくりを考える時期だと思う。
- ・環境アセスのような決まり事を、罰則はなくともゆるやかな条例によって位置付けていくことも一つだと思う。

- ・資料「伊勢市環境基本計画(冊子)」p4に、「『伊勢市の環境のめざす姿』および「基本方針」、「基本目標」については、長期的な視点からみた理念であると捉えており、原則、次期計画においても引き継いでいくものと考えます。」とあり、その考え方を審議会で共有したい。

- ・開発後に、保護策を講じることはできないか。
- ・計画時点で状況把握することで、環境を考慮した計画を策定することができる。
- ・河川工事の際に、環境評価に参加したことがあるが、やるものとやらないものの違いとはなにか。
- ・規模や実施主体(公共・民間等)により異なる。
- ・民間のよるものも含め、一定の開発行為等に対する考え方を整理することが大切

- ・約一年の審議期間があるので、十分な審議が可能であるが、スケジュールを示してほしい。
パブリックコメントや議会報告等の時期も含め、次回会議において審議のスケジュールを示したい。
- ・策定にあたり策定業務補助(コンサルタント)、アンケート調査等の委託は行うのか。
現在、平成26年度の予算編成中であり、検討・調整したい。

- ・震災以後、住民の意識は大きく変わった。大仏山の住宅開発も「高台」ということがある。
自然保護の観点と防災の観点、相反する部分も含めて考える必要がある。
- ・環境は命を守るということでもある。縦割りでなく、環境と防災を一体として考えることが大切。尾鷲市においてはひとつの形をつくった。

5. その他

委員情報の提出依頼

- ・委員報酬のお支払いのため、また、連絡調整等のため、口座情報、連絡先情報をご提出いただきたい。